

「価値ある豊かな学び」をつくるための実践

「よく見る」「じっくり考える」「しっかりと表現する」の活動を重視する。

第4学年*組 社会科学学習指導案

指導者 小松崎 千恵子

1 小単元 水はどこから

2 目標

生活で使われている水に関心をもち、見学や調査活動を通して飲料水の確保について意欲的に調べようとする。

(関心・意欲・態度)

飲料水の確保が組織的・計画的に進められていることによって、地域の人々の健康な生活の維持と向上が図られていることを考えることができる。

(思考・判断)

飲料水の確保の方法について調査したり見学したりして分かったことを、絵、文章、グラフなどに分かりやすく表すことができる。

(技能・表現)

地域の人々の住みよい暮らしを守るために、飲料水の確保が組織的・計画的に行われていることが分かる。

(知識・理解)

3 単元について

(1) 児童の実態

児童は、前単元「ごみの処理と利用」に意欲的に取り組み、自分達の生活の中から出るごみの減量を心がけているところである。実態調査から、見学や調査などの体験的な学習を好む児童が多いことが分かる。また、児童の多くは自分の考えをもって話し合い活動や調べ学習に取り組んでおり社会科学学習へ意欲的であるが、20%前後の児童は受動的であることが明らかになった。さらに、本単元である飲料水の流れについての知識は乏しく、水道を毎日使っているものの安定供給のために尽力している人の存在については全く知らないと言える。その理由として冷水器の水は飲んでも、水道の水は安全ではないから飲まずに一度煮沸した水、濾過器を通した水、購入した水をとというようなライフスタイルも影響していると考えられる。また、生活場面の中で水に関わる人との接点も見付けにくいことも考えられる。

情報化社会の中で断片的・一面的な知識はあるものの、視野の狭いとらえ方をしている児童が多いのが現状である。

実態調査

1 水道の水はどこから送られてくるのか 知っていますか。 (知っていること)	・知っている 14人 山・川・海3人, ダム1人, 水道1人, 浄水場2人, 水道局11人 ダム 水道局 家 1人, 雨 ダム 浄水場 1人 水道局 水道管 1人, 空 雨 川 浄水場 1人	・知らない 18人
2 水のために働いている人を知っていますか。 (知っていること)	・知っている 3人 水道局の人, きれいにする人, 浄水場の人	・知らない 29人
3 上手に、そして大切に水を使うために工夫していることがありますか。 (工夫していること)	・ある 19人 出しっぱなしにせず, こまめに止める。 少しずつ使い, むだ使いしない。 お風呂の水を洗濯に使う。 雨をタンクに入れ使う。 シャンプー・リンスを使いすぎない。 エコシャワーヘッド。	・ない 13人 14人 3人 3人 1人 1人 1人

(2) 教師の思いとアプローチ

本単元は小学校学習指導要領内容(3)を受けて設定されたものである。ここでは、わたしたちが普段何気なく使って生活している飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、具体的な見学や調査及び資料の活用を通して調べ、安定供給や衛生的処理を図るために様々な対策や事業が他地域の人々の協力を得ながら進められ、地域の人々の健康な生活を支えていることを考えるようにすることをねらいとしている。

本校では、具体的な調査がしやすくより児童にとって身近な学習素材であるという理由から飲料水を選択して学習している。また、4年生は総合的な学習の時間で「吾妻キッズ隊」と称して「ごみ・水・エネルギー」をテーマに環境教育を実施している。総合的な学習の時間では、最終目標を「環境を守るために行動を起こす」こととして取り組んでいるところである。しかし、児童の実態から知的好奇心は高いものの実体験が限られており、安全な飲料水の供給のための設備や働いている人々の実態や苦労については断片的な知識にとどまっている実態が明らかになった。このことから、学習の導入時に手洗い1回に使う水の量調べや家庭における洗濯、風呂の水の使用料を提示し、水への興味・関心を高め、追究心を刺激し、意欲付けを図る。問題追究場面では、統計資料・写真資料・実物の活用を図り、子ども達にとって身近な学校の飲料水からつくば市全体の使用量の変化及び使用料を調べていく。また、実際に浄水場見学を実施し具体的に調べるとともに仕事に携わる方から話を聞く場を設定していく。調べたことは、一人一人がキーワードを意識してまとめるとともに、水のしずくの立場に立って、一言感想を綴っていく。その際グループ活動による情報交換の場を設定し、各自の考えの良さや共通する願いに気付き、思考を広げ深める場とする。その中で普段当たり前に使っている水の安定供給のための工夫や苦労、他地域との協力について具体的な理解を図りながら、水の循環を守り環境のために自分自身ができることに迫っていけると考える。

また、単元を通して、日本第2位の面積を持つ霞ヶ浦を活用して様々な人々(霞ヶ浦浄水場・市役所水道課・水みらい21)が関わり合ってライフラインを築き健康な生活を守っていることを実感し、自分達の地域を再認識させる機会としていきたい。

4 評価規準

- ア 生活の中の水に関心を示し、自分と水との関わりを進んで発表したり、環境保全の取り組みへの具体的な見通しを持つようとしている。 (関心・意欲・態度)
- イ 水源林の働きやダム役割、水の有効利用のために自分にできることについて考えている。 (思考・判断)
- ウ 水道に関する施設を具体的に観察し、各種資料を効果的に活用して浄水場までの流れを分かりやすく表現している。 (技能・表現)
- エ 水をきれいにする仕組みや人々の働き、水を確保するための仕組みや努力が分かり、水がどのように循環しているのかについて理解している。 (知識・理解)

5 学習計画 14時間扱い

次	時	学 習 活 動	学習形態	評価規準
1	2	生活の中の水に関心をもち、水の使用量を調べ、学習問題をつくる。	一斉・個別	ア・イ
2	7	学校内の水道設備調べやまちにある水道に関する施設・設備調べ、浄水場の見学を通して、きれいで安全な水をつくる仕組みや安定供給のための工夫や地域間の協力について調べる。	一斉・個別・グループ	ア・イ・ウ・エ
3	1	(1) 水を有効に利用する取り組みを調べる。	一斉・個別	ア・ウ
	2	(2) 自分達にできることについて考え、話し合う。	一斉・グループ	イ・ウ
	2	(3) (本時は第3時) (4)(5) 水新聞を作り自分の考えをまとめる。	一斉・個別	ア・イ・ウ・エ

6 本時の学習

- (1) ねらい これまでの学習をもとに、自分でできる節水方法とこれからの水の有効利用を考えることができる。
- (2) 準備・資料 児童発表用資料 パソコン ワークシート 提示用資料
- (3) 展開

活動内容	形態・資料	教師の支援 及び 評価
1 学習課題をつかむ。 水を大切に使う方法を考えよう。～水のしずく救出作戦～	一斉 提示用資料 1日に使う水の量 水源林のしくみ	前時までの学習内容を提示資料で振り返り、水を有効に利用する重要性を確認し、本時の課題への意欲を高める。
2 グループによるポスターセッションを行い話し合う。 【予想される内容】 自分の生活における工夫 水はこまめに止める。 家庭における工夫 節水こまを取りつける。 洗う物は汚れを落としてから 町中における工夫 雨水をためて植物に水やり。 学校内における工夫 雑巾すすぎはバケツを使う。 他市町村における工夫 福岡ドーム雨水をトイレで使用。	一斉 グループ 提示用資料 (ポスターセッションの流れ) ワークシート 発表用資料 (ポスター・実物) 予定G形態 ●発表者 机 ワークスペース ● 教室 ● ●	ポスターセッションは初めてなので、流れを説明するとともに提示して視覚的に確認していく。 今回は同一テーマ毎にグループ分けをしたが、今回は意見の交流や話し合いの深まりをねらい、違うテーマ毎にグループ分けをする。 教室とワークスペースを有効に使用して場を設定し、教師もセッションに参加しながら意見発表の苦手な児童を励ます。 実際に行っている取り組みをイメージしやすくするために、事前に可能な限り写真資料や実物を添えて発表するように助言する。 グループの中に司会者を立て、感想や質問を交流させながらグループの話し合いを進める。 話し合いが終わったグループには、各自の考えを友達の考えと比較させ、ワークシートに友だちの発表から学んだことをまとめていくことを確認し、全体の話し合いへの自信を高めしていく。
3 水を大切に使う方法について考え、自分をふり返る。 自分にできそうな方法 身近な水を大切に使う。(資源) くり返し使う。(水のリユース) 有効利用している施設 きれいにして使う。(水のリサイクル) 海水を真水にする。	一斉 個別 パソコン プロジェクター	様々な場面や場所で節水が行えることを全体で確認し、その中でも自分にできることを1つでも増やそうというめあてをもたせ、話し合いの活性化を図る。 思考を深められるように、話し合い結果を数グループに発表してもらい、共通点を明らかにし、節水方法をまとめていく。 水を大切に使うために自分ができることについて、様々な視点から考えている。(思考・判断 発表・ワークシート)
4 次時の学習について確認する。	一斉	前単元で作成したごみ新聞を提示し、次時は学習のまとめとして水新聞を作成していくことを予告する。

「水はどこから

年 組 番 名前【 】

水を大切に使う方法を考えよう。
～ 水のしずく救出作戦～

友だちの発表を聞いて自分にもできそうだった方法をまとめよう。

自分の生活の中で

家庭で

学校で

地いき 他の県市町村で

水を大切に使い、守っていくために大事なことをしずく君のつぶやきにまとめよう。



A large rectangular area with vertical lines for writing the water drop character's thoughts.

ポスターセッションの流れ

相手に伝わるように話そう。
話の中心をしっかりと聞こう。

発表（1人ずつ司会者の進行で）
～質問・感想タイム～

発表から学んだことを
ワークシートにまとめる。
（自分の考えと友だちの考えを
くらべてみよう）

話し合おう。
水を大切に使う方法の中で
考えの共通点は何だろうか？
それぞれの水を大切にするため
のポイントは何だろうか？

ポスターセッションの進め方

1. これから グループのポスターセッションを始めます。
司会の 　　です。よろしくお願いします。
2. 初めに（次に） 　　さん，お願いします。
　　～発表～
3. 　　さんに質問や感想はありませんか。
　　だれからも出なそうな時は，発表者の右の人から
　　言ってもらおう。
4. ありがとうございます。
　　2. 3 くり返す。
5. 全員終わったら，自分の考えと友だちの考えをくらべて
　　発表から学んだことをワークシートにまとめよう。
6. 自分の考えと友だちの考えの共通点のキーワードは何？
　　ちがう場合は，それぞれの水を大切にするための
　　ポイントは何？ 話し合ってみよう。

司会者が自信を持って，進めよう。

相手に伝わるように話そう。
話の中心をしっかりと聞こう。

話し合いの終わりは

2 時 0 0 分